

## ◎ 展示会・イベント情報

### 1. セラミックの可能性「くらしを彩るキッチン」

#### 第2回 CERAMIC LIFE DESIGN AWARD 2018 入賞入選作品展 開催

「くらしを彩るキッチン」をテーマとして「第2回 CERAMIC LIFE DESIGN AWARD 2018 入賞入選作品展」が開催されます。名古屋展は yamagiwa nagoya で2019年1月17日(木)～21日(月)の5日間、暮らしに寄り添う柔軟な観点と新たな提案をご紹介します。

尚、「CERAMIC LIFE DESIGN AWARD」は、セラミックに特化したデザインコンペティションとして、住空間におけるセラミックの可能性や新たな発想を広く全国からビエンナーレで公募し、その活用や普及とともに、陶磁器関連産業の活性化と人材育成に寄与することを目的として発足しました。



<名古屋展>

開催日時: 2019年1月17日(木)～21日(月) 12:00～18:00

開催場所: yamagiwa nagoya TEL: 052-588-8360

〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-23-9 MARUWA 名駅ビル3階

入場料: 無料

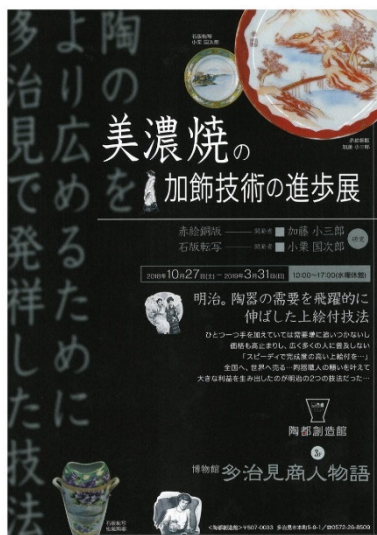
主催: CERAMIC LIFE DESIGN AWARD 開催委員会(一般財団法人神戸財団・愛知県立芸術大学)

問合せ: TEL: 0561-76-3700 (CLDA 事務局) メール: ceramic-lda@mail.aichi-fam-u.ac.jp

[\(https://ceramic-life-design-award.jp/\)](https://ceramic-life-design-award.jp/)

### 2. 美濃焼の加飾技術の進歩展 開催

岐阜県多治見市の陶都創造館で、「美濃焼の加飾技術の進歩展」が開催されています。



ひとつ一つ手を加えては需要増に追いつかないし

価格も高止まりし、広く多くの人に普及しない

「スピーディで完成度の高い上絵付けを…」

全国へ、世界へ売る…陶器職人の願いを叶えて

大きな利益を生み出したのが明治の2つの技法だった…

本展では、明治の陶器の需要を飛躍的に伸ばした“上絵付け技法”を紹介しします。

開催日時: 2018年10月27日(土)～2019年3月31日(日)

10:00～17:00 (水曜日休館)

開催場所: 陶都創造館 TEL: 0572-26-8509

〒507-0033 多治見市本町5-9-1

## ◎ 美術館情報

【各施設では、下記の特別展・企画展等のほか、常設展を開催しております。】

### 1. 愛知陶磁美術館 (<https://www.pref.aichi.jp/touji/exhibition/index.html>)

2019年1月5日(土)～3月24日(日)

特別協同展：犬山焼 ―最新の研究成果とともに―

江戸時代後期に現在の犬山市で創業した犬山焼は、愛知県が誇る色彩豊かなやきもののひとつです。当館所蔵の犬山焼を、最新の研究成果とともに紹介します。

### 2. 瀬戸市美術館 (<http://seto-cul.jp/information/index.php?s=1541491194>)

12月1日(土)～2019年2月17日(日)

特別展：東京国立近代美術館工芸館名品展 「多彩なる近現代工芸の煌めき」

東京国立近代美術館工芸館(東京都千代田区)は、昭和52年(1977)に開館し、明治期以降の日本と外国の工芸及びデザイン作品約3,500点を収蔵する美術館です。その工芸館の膨大な収蔵品の中から、陶磁・ガラス・漆工・木工・竹工・染織・人形・金工の各分野を代表する珠玉の名品約110点を紹介します。

### 3. 東京国立近代美術館工芸館【東京・千代田】(<http://www.momat.go.jp/cg/exhibition/masterpiece2018/>)

12月21日(金)～2019年2月11日(月・祝)

所蔵作品展：近代工芸の名品 ―[特集展示] 棗にまつわるエトセトラ

棗(なつめ)は、掌の中におさまる大きさ、軽さや手触りから、身近な茶道具の一つです。これまで多くの茶人の好みを反映して、さまざまな形が生み出されてきました。本展では、近代の漆芸家や木工芸作家が手がけた棗を特集陳列します。あわせて用と美がせめぎあう近代工芸の名品約100点を展示します。

### 4. 大阪市立東洋陶磁美術館【大阪・中之島】(<http://www.moco.or.jp/exhibition/schedule/>)

12月8日(土)～2019年2月11日(祝・月)

特集展：高田コレクション・尾形コレクション ペルシアの陶器 ―色と文様

ペルシア陶器は、釉薬や器形、装飾などにメソポタミア、ローマ、中国など周辺地域の様々な要素を取り入れつつ独自の変遷を見せてきました。高田コレクション・尾形コレクションのペルシア陶器約30点を展示し、大胆に描かれた花や鳥、図案化された文字、きらめくラスタースタイルなど、色と文様の多彩な展開を紹介します。

### 5. 兵庫陶芸美術館【兵庫・篠山】(<http://www.mcart.jp/exhibition/#jikai>)

12月22日(土)～2019年2月24日(日)

・特別展：やきものを分析する ―装飾編―

やきものは、人類が化学変化を意識的に応用し、生みだされたといわれていますが、現在に至るまでには、かたちや装飾などにさまざまな技術が加えられてきました。本展は、第1弾「一釉薬編―(2016年12月10日～2017年2月12日開催)」に続く第2弾として、うつわに施された装飾の歴史や特徴を、当館の古陶磁および現代陶芸コレクションを通してご紹介します。

・テーマ展：2018年著名作家招聘事業×テーマ展「内田鋼一展 ―時代をデザインする―」

世界の窯業地を巡り、身につけた陶技を駆使しながら、生活に用いる器から、インテリア、建築とのコラボレーションなど、幅広く多彩な活動で注目を集める作家・内田鋼一。本展では、自作に加え、その「形の素」ともいえる収集作品にも着目し、独自の美意識に迫ります。